

庚申八月

申八月
松平伊豆守家

長崎表滞在于和蘭コンシエールセ子ラール儀近
く出府より若く分各圖ミニストル同様止宿所一
ヶ所は取設相成る様いふ一度元々差定相成る
り、間席の様子第一應見置申度者神奈川在留
同國コンシエールより中立候趣在勤同役共より

外務省

外務省

申越書然。惠毒羽根外國人旅宿。當時亭漏生
使節止宿。露在。其間。並英佛等。之。都合。を以。三田麻
布。選。之。而。相應。之。寺院。一ヶ所。在。其。邊。源。相。成。之。方。之
奉。存。之。依。之。右。邊。之。而。差。支。等。之。寺院。早。之。取。調
可。申。上。吉。寺。社。奉。行。之。被。仰。添。也。座。之。據。仕。座。依。之
此。殿。申。上。候。以上

申八月

溝口 頼政 守
酒井 徳政 守
堀 誠 郎 正
竹本 周 書 頭

島居 越前 守

水野 龍 後 守

外務省

外系

辛酉三月十七日

千八百六十一年第三月三十一日出島より

日本不在る尼達蘭 コンシユルセテラール館

謹了閣下不白以日本政府余江戸の住居長應寺を
明渡以を望み給ふんあを余不文通ひぐーと神奈
川奉行より尼達蘭のフリーエコンシユル不請ひあり
余之を閣下より神奈川奉行不令一給へると思
はざるなり○余此請不応せり論あり却了閣下地
人を中不田やるあり直不尼達蘭の名代不報告
以て余不注目一給ふあんと思ふあり

外務省

神奈川奉行何故不期る事を請ひ多や余之を解し
得今此事閣下の命なりとざる證據として閣下そ
の所為の當りざるを以て奉行不指示に恰もん
とを願ふ恐惶敬白

日本不在る尼達蘭コンシエラール

イ、カ、デ、ウ、イ、ツト 識

日本大君殿下の執政兼外國事務宰相閣下不呈以

享酉四月八日

阿蘭陀コンシエラール

エキセルレンシー

イ、カ、デ、ウ、イ、ツト

貴國第三月三十一日附し書翰落手披見其許都下滞在
中、旅館長應寺詰合執人の預り政務候諸物件他所
へ引移し方、儀神奈川奉行へ命し、田所在留し貴國
フイセコンシエルの談判為及候儀、力申越さ
るゝと、以へども右、其許神奈川表に退去せしむる
全く一時し事あるべし、其節詰合し、役人等思ひ量

外務省

有り其託を承引せし不其後直不其地へ被引取しと
 其歸都の期も定むるに火災賊難の患も亦あり
 且旧寺院主しるも迷惑に被申立し不し諸物件
 其或る壹ヶ所は後轉し其筋の者不命し安全不保護
 且院主に迷惑を被除きしと思ふに雖も手段に取
 計も成らざるあり遠路然隔に地應答に便程に
 事件あり何ふべきを其機にシエルあり可
 否決りて其事と思ふに故不其人に引合しあり素に
 り隔意に及ばざるに不其前書に次第諒察有
 之諸物件移轉し諸君早々回報有之を各書傍中入候

拜具謹言

文久元年辛酉四月八日

久世大和守花押

安藤對馬守花押

書面田村石見古集卷之通稱
御讀者奉呈知
二月七日 佐藤定泰
同 芳味改

子路

長間別紙繪圖面朱門へ通早へ發出朱子様仕度
廿段小著袴奉引へ被仰渡可被下長以上

酉六月

外國奉引

別紙繪圖面朱子

辛酉六月

書面別紙繪圖面へ通早へ
出兼朱子様仕度へ取計退立
入用事預可奉候旨被仰渡
奉悉知也

酉六月廿日 田村石見守

書面田村石見守様へ通
被仰渡旨奉悉知也

六月七日

佐勘足奉引
同吟味及

和菜院コンシエールセ子ラール止宿所上高橋長

應寺境内へ別紙繪圖面朱門へ通朝鮮考朱長

箱番屋兵中取建相成者様仕様此殿小普請奉り
、此所波可被下者以上

丙六月

外國奉行

別紙繪圖面寫す

壬戌四月廿五日

第百卅九號

日本の和蘭コンシエラートゼネラル出島に於て

千八百六十二年第五月十四日

日市 大君殿下外國事務宰相両台下より

台下と余との終りの會合に於て第七月一日再び歸

り来りて暫く長應寺に淹留し居る事を告げ置あり

此時台下宜しく余が家具を當寺に送り返さる事

を許せり然るに今余が政府の命より尚早く出府

せ居る事となり當月第廿六日和蘭の軍船に乗る

一終

外務省

江戸の如く是故に台下方七月一日を待てし
此書箱着の節直に余の家具を長應寺に送り給へ
事を台下の揮願を恐惶敬白

日本在留和蘭コンシエールゼネラル

イカデウイット

出府前所置濟田答ニ及ハサリシセノナリ

壬戌五月三日

一覽仕候
戌五月内勘定奉行
同吟味級

和蘭コンシエール出府ニ付上高橋長屋より止宿
二月同古境内級に諸不仮建物持休矢本力分共
以取繕之儀以對致進達並候旨より仕裁取掛
出来候松分由事より産有之候旨ある諸勘定
方外國方此目付主合見分仕候外級に諸不仮

外務省

建物屋根向大破損胡解糸未破損強方分いつき
も其修難差並余示之可申文以之修所修之
様之以上三日より所修り申候所入用之儀と差
向候儀之月家至之趣り本口一式之移り所内爲
之取調申上候様可仕候此段申上候以上

小巻方

五月三日

日置藤藏

壬戌五月

書面小巻諸方見合之上
可成之手帳也入用之書來
之積り計吉此修儀奉
之如次
戌六月先。有馬守力

和蘭コンシエールセ子ラール止宿罷在共芝伊皿
子長應寺境内所用出役詰所仮口建物之儀進之
被修後其師と有之其間室前よりも人数相増詰
方若仕在處式ヶ所方手帳之也差支其間宿寺詰

外務省

外務省

立會役ノ申候別紙繪圖面表書ノ通ニ建増ノ儀
仕裁取掛キ積ニ付右ノ極小番諸奉行ハ被付候
可被下付依ノ繪圖面相添以段申上付以上

戊五月

外國奉行

繪圖面表書ノ

壬戌十月十二日

荷蘭コンシユルゼ子ラール

エキセルレンシー

イカデウ井ットへ

以書簡申入候今般其許長崎表へ被罷越候ニ付宿寺
ニ有之候仮建物等者是迄之振合を以都而取拂ぬ右
者先達而間仕切修復料等之儀ニ付行達之儀有之候
ニ付為念断リ置候尤残一置候諸道具等者預リ置候
間被申立次第可引渡候此段申入候拝具謹言

文久二年壬戌十月十二日

村垣淡路守花押
竹本隼人正花押
一色山城守花押
菊池伊豫守花押
井上信濃守花押
阿部越前守花押
齋藤攝津守花押

壬戌十月十二日

神奈川在留

荷蘭コンシエール

エスクワイール

トデカラーフハンホルスフルックヘ

以書簡申入候別紙之通甚コンシエールセ子ラールハ
申入候子付則寫一差進候間甚許り其段心得被置
度候謹言

文久二年壬戌十月十二日

村垣淡路守花押

竹 本 隼 人 正 花 押
 一 色 山 城 守 花 押
 菊 池 伊 豫 守 花 押
 井 上 信 濃 守 花 押
 阿 部 越 前 守 花 押
 齋 藤 攝 津 守 花 押

乙丑正月廿八日

第廿九号

千八百六十五年癸二月廿二日 神奈川 少将

外周事務執政閣下 小呈

余君 小告知 余本月廿五日 我正月 小江戸 赴く

と 多 事 以 希 閣下 好 意 以 和 系 二 使 務 館

小 番 兵 三 備 へ 事 給 人 事 を 謹 人 呈 上

日本在番和系よりチーフエージェント兼マシエルゼン

ド、デガニーフ、ファン、ボスブルーク、記

事済シヨシニテ回答ニ及ハサルモノナリ

外務省

乙丑八月五日

第一一三〇号

千八百六十五年第九月廿四日江戸より

江戸外國奉行田村肥後守以下

日本出留荷商ポリチーケーアゲントの命に因り余は

之を書と共ニ彼及の彼が先任の者長に寄附て

たる修復の料四百〇八兩一方の算計書を呈下し呈

に

右の外尚ロイテン(きやまん)の料百三十ドルナル

發掘和の料せ五ドルナルは國の作料及び其他細費

外務省

件ノ料三十ドルヲルアリ而して其三十ドルタルの
 書付を来し余之を入手せしむるに以て荷蘭公使館出
 費今日迄を積むに四百〇八兩を分と百八十五ドル
 ラルとありあり馬惶敬白

日本駐留荷蘭公使館のアスシステント 官名

ハ・マ・ノールト・フック・ヘット 記

覽

一金四百五拾

銀内多積
造より掛り金

一金五百六拾八ツ

銀内多積
後より掛り金

一金百八拾三ツ

銀内多積
後より掛り金

一金四百四拾

新現馬屋多積

ノ壹歩千六百三拾三ツ

此金四百八兩壹歩也

右に通以座候以上

江ノ
大工

外
務
省

弥
土

上

乙丑八月十二日

和士園書記官子差出候書簡之儀
三月申上候書付

外國奉行

和蘭書記 肥後守宛書簡 封差出候 白文
 澤為致一覽仕候處 同公使止宿所 長應寺 同國先
 任之者 修復致一候 出費 義助書 差出候儀 有之
 右主當月二日 肥後守同公使 引合之 第止宿所
 狹隘 付同寺庭園之泉水 埋立竹矢束等 敷拂別紙
 繪圖 面之通二階 家建詣致一 度旨申付候處 同寺

一 一併地所も被隠し付宿寺習致し可然哉之旨
一 應相續おしひ修處いつせよても宜敷修得在
宿寺習之方と修得と先任之もの修後料に償被
下度建増之方と修へて其入費只今政府おいて
以仕拂致成下右入費十分之一と年々相納可申
報と以中修就る點被仕修處宿寺習之儀と此も
適宜と寺院も皆之同意且仮令可然寺院も之修
之由立束建物之修住居と出来不申左修へて右
以修繕も及て諸所具外引移西入費も勿論前衆
修後料に償寄して是亦多少と以出方にも可相

成修向結句長座寺以建増社成造修方可然建増
之方と元と回と使希企之儀と自時後本公使館
以建増以差延之以都合と以相成可申哉と彼方
望と通建増社成造修々自然回寺居住も永く相
成寺防難被可仕修向年々相當と以多當不被下
置修るも相成回衆修得と宿寺習相成修るも
以形名可然哉存存修右可然被思召修る建増も
泉水埋立等以入費寄之儀と其節之もの被成
以下早々島相可差与有被任被修修仕安寺存修
修之来書修文と別紙異島書繪圖に相添此段

和蘭國使臣館長應寺建増圖面

和蘭國使臣館長應寺建増圖面

989

申上候以上

旦八月

山口駿河守

菊池河縁守

田村肥後守

星野備中守

江連加賀守

和蘭國使臣館長應寺建増圖面

988
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

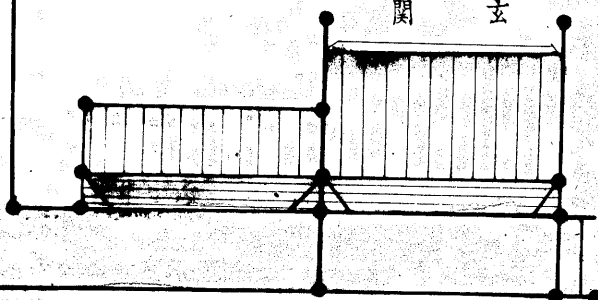
通69-0144

<http://www.jacar.go.jp>

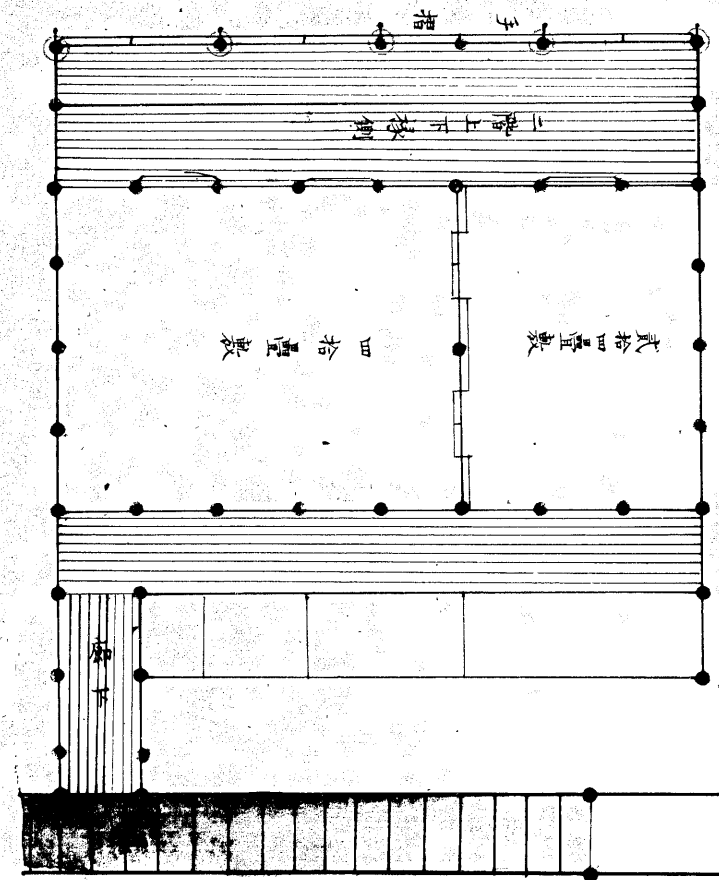
以五分為六尺

朱引建贈之分
六拾四坪一六六

玄 閣



990



夕
夕
夕

989

国立公文書館 アジア歴史資料センター

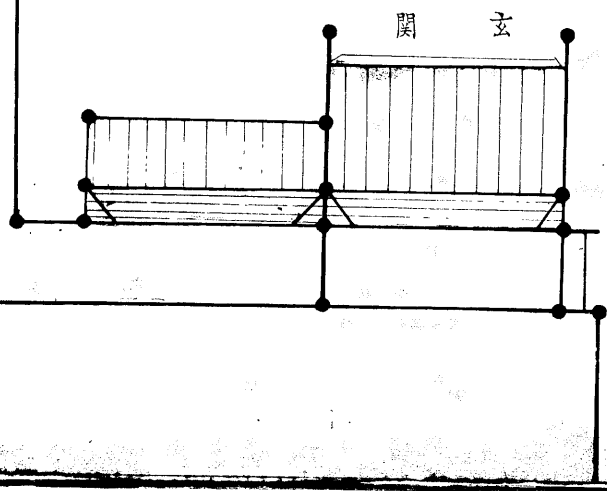
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

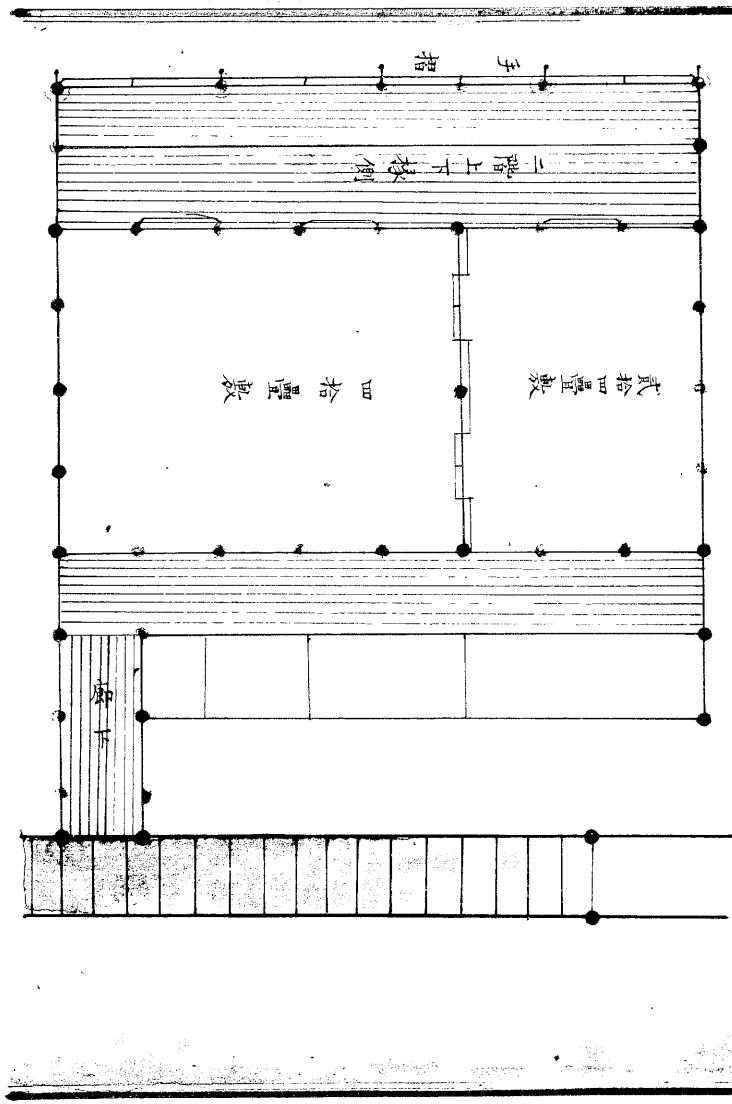
通 69-0145

以五分為六尺

朱引建增之分
六拾四坪一六六



990



夕
夕
夕

989

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

通 69-0146

<http://www.jacar.go.jp>

外務省

乙丑九月十日

書

書面之極主是迄外宿寺とおいゝ右振子重建増
号出来致候儀無之候間何後差響とも可相成候
二付二階家之分平家建上致一建物取編極々評
数少小致一候積今一應厚遂判猶可被申候儀
事

外務省

外務省

乙丑十月十五日

蘭公使宿寺増建物之儀、白相伺候
書付

書面細々通し可也得否
被仰渡奉知候

外國奉行

蘭公使宿寺建増之儀、白當八月中要細取相申
上條趣、白留之候處、猶右様より重建増等出来候否
其伺後、差響等より相成候、白二階家之分平家
より、建増取端坪数七、今一應承可遂候判
候、此書取立、被仰渡奉得具嘉然、處同公使儀
大坂表、國帆船守中より白帰渡、上、此報意通り

外務省

猶說得可仕と奉存居所處今般般看おいと此處
置之次第有之自然各國公使有之此務待振
之以前と主相違い多し己不此違し相成候所般
表柄有之有之候と自猶有之勅有仕候得共請求
之建物を縮小之儀既得方裁應之禮判を重ね候
其承允可仕見据り無之候と主此より前長方一匹
違相預申立候所可相成と必此と有共節此許容
不被成違候事有主相成有候場合と主可申も
難計左候有主前般と禮判却て以不般合と相成
可申と付平家建増の方主彼方請求と被る應

二階家取建候儀と書取之趣差合和共と禮判
可仕有存候右可然被思召候と主以下知所在
候所仕度候之此般奉伺候以上

丑十月

桑池伊豫守

星野備中守

江連加賀守

朝比奈伊賀守

外務省

伺之通可被心得候事

覺

乙丑十一月十一日

外務省

外務省

乙丑十二月十一日

第四
三零号

千八百六十年第一月廿六日神奈川ニ於テ

江戸

外國奉行諸君足下ニ呈シ

余日本ニ在る和蘭のポリテーキアゼント兼コンシ
ユルセネラールの命ニより謹ク足下ニ左條を乞ふ
所老中江戸ニ在る和蘭の使館を遠ク是迄更ニ既ニ
同意ナシヤ否思フ其建是を始むルハ我日防ありヤ
余ニ告知シ給ふんことを謹言

外務省

外務省

日本にある和蘭公使館附屬カシセル

エルトケレインチース

建増ノ儀既ニ起エニヨリ回答ニ及ハサリシ
モノナリ

乙丑十二月十四日

荷蘭カシセルカ差出候書簡ニ儀
申上候書付

外國事務
平山福次郎

荷蘭カシセルカ私共宛書簡差出候ニ付
譯居致候處同國コンシエラールカ兼テ
申立有之候止宿寺建増ニ儀彼申立候通リ以テ
前狀カ所許容相成修裁起工ニ以合衆ノ旨
申立候儀ニ旨ト右カ先以申セテラールカ申立
候二階家ニ儀ニ此程私共カ要引合おすの字家

外務省

外務省

以下宣敷旨以振奮通承服仕候、付達増設成造
候方司旨之哉、旨既ニ申上候様、以座候間早
ニ以下知以有修振仕宜右以下知次第其振、以
通簡可差違存存候依之奉書符文相添此版申上
候以上

丑十二月

栗池仁豫守

星野備中守

江連加賀守

朝比奈甲斐守

栗本安藝守

平山謙次郎

外務省

外務省

右通簡大意

一云々相中相移並知セリ右地不意手候ニ分列
小形親地不相撥来迄丁候迄右不候表一相同
中ニ分右相台リ次方早速石掛リ可丁見込
通不相成義何ノ止前寺早々建塔万丁作名
十二月廿二日 田所守殿一上る

右長所日渡上ニ分室四月廿一日参物と決込

此書散送シテ傳フル者ナシ只革案ナ起
セシ而己ニシテ彼ニ送致セタル者ナレ

父子

第三十一 歸

外國事務執政台下
呈

頃日外國奉行一名を余が方に送り台下にあり
和蘭公使館の差増を余之を請求せしむ所を
見しに條約通名國名代人の在りし公使館を
差増と見合する所

甚願此事、一回嘉、一若、一江戶、一上野、一金、一新選、一和蘭

下
終
龍

外務省

公使館を建てることを台卜書面を以て余と約し且建
又其用意ある一月の時期を示し給ふ、故に使館の
建増を見合ふ一ヶ月間の先行を以て回答せり
余今日迄召書面の報告を述べて終りたり然るに余は
回職の一人として聞かると台卜江戸よ公使館を建
ることに決したるを承解したりと
如斯く是ハ新に召國公使館を建てるに始ると二三年
の後あるべく將我の政府より更に江戸に於て適宜
の場所を求め給ふ命令を得たる見ハ余僅に台卜よ
後ハ余の示たる國と紙の江戸公使館の建増を遂ふ

始りん事を個し其添へ建る所の家と近き定る所の
新公使館敷地と場所と後し場と新と建つるに使
館の書記官の家にも其添建ともある由り給ふ
建増を賜ふことを候ふお具儀言

立日本和蘭通商手続規則並ニ其ノ附屬文書

ドデガラーフハンホルスブルック

既ニ建造着手ニモ成リタルヲ以テ回答ニ及
ハサリシモノナリ

外務省

外
種
神

丙寅二月七日 仕出

一英伴亞蘭公使字跡コニシエル（止宿所多一
帯刀人多ハ何處在事許ハル華ヲ最細ト通り
見商人ハ形金銀仕工分然念石少ハ乃示後華
刀セリとの多事刀を脱一物上ハて出入御差
許度名ニ少事簡書

同日此拾九番ニテ廻し出仕

同月十二日此分格らく見分（き名ニテ華

福ハ事簡掛り一紙リ多ハき名何リ英公使

ニ分一通別不出来

外
務
省

此書散逸シテ傳アル者ナシ只草案ナ起
セシノミニテ彼ニ送致セサル者ナレ
後考ノタメ姑ク書翰目錄ノ旨趣ヲ抄録
ス

丙寅二月廿五日

五十二号
百世四号

千八百六十六年第四月十日江戸

呈

江戸外國奉行台下

左日本和蘭ポリチータゼント兼コンシユルゼ子
ラールの余ニ依リ余台下ニ驻ル和蘭公使館の建増
ヲ何時に見セ初メ給ヤ余ニ報知シ給ハルガ
御恩謹言

在日本和蘭公使館のカンセリール

外務省

ル、チ、ケ、レ、イ、ン、チ、ー、ス

既ニ建増著手ニ成リタルヲ以テ回答ニ及ハサ
リシモノ

丙寅二月

書面之類ノ硝子
板鍍銅物類并
華金除金戴子百
拾五兩戴分七
不丈支吾之松
橋切紐方棟梁引
更建増長芳詩出
未五移ノ時勘定
行支配向主役之
心者ニ而取心同
而詰以目付支配
向之者ハ立合
必乃候松可申渡
吉所勘定事ナ
目付一取仰候
間乃其意私共支
配向之儀ナ
持場

書面外國ナリ奉付
云通云仰候候方存

外務省

夕
新
省

之麻上以取扱候
板可申扱考多御
坂寺米知候
寛二月廿六日外國より

米知候
寛二月廿八日小栗上野介
駒井甲斐守
里野録三郎
坂井勘左衛門

芝伊皿子長應寺境内和蘭人旅泊建増味普請法
入用之儀供作事方米ニ榎橋切組方棟梁枋渡
表外國人家屋取建方受貞事取候者共差加法入
用換入札申付精ニ吟味詰可申何方迄御扱考
始共表右三子移合入札之上開れり候如金

貳子百拾五兩貳分以榎橋切組方棟梁花田持
右橋門表札仕尤硝子板鍍銅物類等々コンシエ
ル也子うール方おめて取寄候申御候る迄而代
料迄差寄候様ニ月右品ニ米等々お除き前文五
段ニ而味普請爲受貞可申存候就而右味
普請掛り之儀供勘定方所付方米共其支配向
之儀も掛り可申御付儀ニ存候候如札共支配
向之儀ハ外國人引合主之儀ニ而右味普請向主
級之款ニ主之儀ニ存候候旨供勘定方所作
事方之内ニ而主級お申爲味普請出来候板仕

外務省

又尤右建物と連ニ取掛り候松り由一又右金簡
 二而申立支配向ハも又と催促申出候二月右主
 役并掛之儀早と其筋一以下知所候松仕反依
 之此段申上候以上

寅二月

菊池伊豫守

星野備中守

江連加賀守

朝比奈甲斐守

石野筑前守

詰勘定なり
 同吟味役 評議
 改勘定方

裏面之趣一覽仕候如和蘭コンシエルセ子ラ
 ール品古建増佳入用之儀ニ付三月移合表仰
 渡候二月役と立合開れい由一候由之如金貳
 子百拾五兩貳分と以榎橋切組方棟梁花田渡
 右橋門落れお本尤硝子板鍍銅物類をコンシエ
 ルセ子ラール方おゐる取寄候趣追而代料差
 出候右品と并事とお除候移いつてもな

外
 務
 部

儀式等候間前奉落札付入用事を以建増法
 普請を仰渡可然且樋橋切組方棟梁共引渡
 を仰付候上ハ此臺場并越中崎調練場等を見
 合を以法勘定方ニ而主役方より法目付方立
 合を仰渡外國方主持場之康を以取扱候移り
 主御役候方共々奉存候左候ハ本文付入用金
 高を以法不丈支費之松樋橋切組方棟梁引受
 建増法普請出来之候法勘定方主役之心為り
 以此旨諸機りニ而主心持法目付方立合之儀
 亦是又同而詰ニ而立合を以候移り法勘定

奉行法目付ハ主御役外國方ハ持場之康を以
 取扱候松可致方外國奉行ハ主御役可致
 奉存候

寅二月

小栗上野介

駒井甲斐守

増田作左衛門

星野録三郎

松井助左衛門

法勘定方

外務省

外國より一連

着面之趣を硝子板鍍銅物類并金等を除金貳百拾五兩貳分を以て不文交之松樋橋切組方棟梁引受建増は差控出来之積勘定より支配向主役之心なりを以て詰之るに而る心は因に詰目付支配之るに主合を心は候松可申渡去此勘定なりは目付へ未達候るは其方共文

外務省

外務省

配向之儀と持端之康を以て取扱候所可敷申渡候
事

所勘定事なりと達

阿蘭陀コンシエールセウールルル寺建増之儀碯

子板鍍銅物類兼事と有除法入用金貳千百拾五兩

貳分と以て不丈夫云之松出来之横樋橋切組方

棟梁花田清右衛門七引受申付方共支配向主

級之心為と以て所詰之者ニ而有心為候所可敷

申渡候且又所目付支配向之儀も同所詰之者ニ

事務省

夕
神
省

合右心以候様外國より支配向ふ儀と持揚之儀と
以為所扱候様外國より此目付一未達候可
為申渡候事

此目付一達

阿蘭陀コンシエールセるうル所古達増候事
中同所詰貴方共支配向ふとの立合ふ心為候様
可為申渡候事

小
務
省

外務省

丙寅八月晦日

第百四十五号

千八百六十六年八月八日江戸に於て

江戸外国事務宰相閣下ニ呈上

江戸に於て荷属の公使館全く落成したるに付右等
諸君より日本彼人の輕少の贈物を與ふに欲す即ち其
役人之姓名を左に記せる人によりて贈物に品極
上荷属製之唐紙を人々付一紙よりなり

案據て閣下ニ致す右之役人より此贈物を送る事
ありと許し給ふるを以て此禮致す

外務省

聖園ホリキモアチントス兼マニエルセネラル

ドデガラーフアンホルスフルック

原喜三

コブレ

ハモナカ

山崎

宮原

北村

海崎

三浦

中村

橋本

吉沢

宮川

猪俣

西室四郎

外務省

1011

1010

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

通69-0167

名前書

外國奉行支配廻役

系 喜方三

田定役

濱中源次郎

山崎龍太郎

田同心

中村謹之助

橋本昌五郎

外務省

外務省

通詞

猪俣富五郎

西 貞八郎

内 勘定

小 樽 銅 三 郎

同吟味方中役

北 村 孫 一

日暮橋役代り

須 崎 貞 五 郎

三 浦 吉 兵 衛

内 徒 目 付

宮 永 壽 三 郎

内 小 人 目 付

吉 沢 峰 松

宮 川 清 八 郎

外 務 省

荷蘭公使不彥出使書簡之儀上付
申上發書付

外國羣行

荷蘭公使方氏前授方完書簡李封差出候之付翻
得書致一覽仕候處回公使止宿所長應寺建詣差
成之付謝儀之一一右差請謝之配向差以勘定以
從目付等之唐搦差之、差贈候儀之省之右生掌
差之以相贈候儀之省之候間在關局相成事候以
族抄被任遣候方哉事存候右之可辨候之私見

卜者道

寅九月

為池伴隨守

榮日伺守

星野儲中守

江連加賀守

石野鼠前守

不出大和寺

川勝近江守

西
寅
九
月

正阿蘭 子ニミエルセネラール兼。ホリチーキアセント

主
キ
セ
ル
レ
ン
ミ
]

ド
デ
ガ
ラ
ー
フ
フ
ア
ン
ホ
ル
ス
ア
ル
ー
ク
に

其國第十月八日附第百四十六号之書簡發至彼國也
 リ其公使能普請落成せし新右第情狀之ものを其書簡
 装之唐摺一疋ヲ致差猶修繕委彼事示ニ後の至拜之
 惠意を仰へまゝ受知為致候此段田舎如狀相恩禮

慶應二年丙寅九月

卜 勞 事

夕 夕 夕	井上河内守表押	松平国勝守表押	松平健政守表押		時機後 レ タル ヲ 以 テ 達 セ サ リ シ モ ノ ナ リ																			
----------------------	----------------	----------------	----------------	---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--